

●JICA国内研修ケンパ訪問記 VOL.16 佐賀県窯業技術指導プログラム編

OJAMA-SHIMASU

たけだみり



また、ベラ州で陶器製造業を営み、磁器の開発に意欲を燃やすアデルさんが昨年6月に来日し、1カ月の日本語研修を受けた後、窯業技術センターで4カ月半にわたり磁器の製造技術や量産システムなどを学んだ。私たちが研修現場を訪れた日、アデルさんは関戸さんらの指導のもと、マレーシアでは結婚式によく出されるゆで卵を置くエッグスタンドを量産するための技術の習得に励んでいた。彼は帰国後、有田で学んだことを踏まえて、セラミックセンターで技術開発・指導に携わることが期待されている。

今回紹介するのは、佐賀県とJICA九州の連携で行われている草の根技術協力事業「佐賀県窯業技術指導プログラム」。この研修は、有田焼の製造技術や知識を活用して、マレーシア北部・ベラ州の窯業に携わる人材を育成することが目的だ。研修場所は、日本における磁器生産発祥の地で、400年の歴史を持つ陶磁器の町、有田町にある佐賀県窯業技術センター。窯業技術の研究開発や、地元関連企業との連携強化、国際的な技術交流の推進などを担っている。

ベラ州は陶土の産地で窯業が盛んな地域。すでに陶器に関しては多くの職人が窯元をかまえ、製品を生産しているが、現在、質の高い磁器を生産して一大産業に育てるべく、ベラ州開発公社が陶磁器起業者の育成や製造技術の向上に取り組んでいる。

1980年に海外技術研修員の受け入れを開始した佐賀県では、96年の「世界やきものサミット」をきっかけにベラ州との交流が生まれ、翌年から毎年、窯業分野で研修員を受け入れてきた。2004年にJICAとの連携で現在のプログラムが始まり、05年には窯業技術センター陶磁器部の寺崎信さんと藤崎之さんが、06年には堤靖幸さんと関戸正信さんが現地のセラミックセンターで、約1カ月間、技術指導を行った。